参考資料２

小樽市立地適正化計画（案）に係る説明会意見等の概要

（立地適正化計画（案）に関する主な御意見等）

①蘭島会館（12 月 9 日･10:00～11:40･出席者 12 名）

・地域特性活用居住区域は、公共サービスを充実するというが、消防支所の廃止と整合が取れないのではないか。また、自家用車に依存しながらというが、路線バスが減便されている中で、車が運転できなくなったらどうするのか。ふれあいパスも蘭島は追加料金を払わなくてはならない。何とかならないのか。

②塩谷サービスセンター（12 月 9 日･14:00～15:20･出席者 6 名）

・夕張ではコンパクト政策を進めたが、結果として失敗している。小樽もそうなるのではないか。
・人口減少を前提に話を持ってくるのはおかしい。人口増加対策を持ってくるべきであり、人口減に拍車をかけるだけだ。

③銭函市民センター（12 月 10 日･14:00～15:30･出席者 11 名）

・近年、張碓に音楽家や彫刻家などの芸術家も移住しており、文化都市となりつつある。銭函には、山と海があり、鉄道の交通アクセスも良く、これらを生かす必要があるが、土地が少ない。
・手稲の医療施設（渓仁会等）や星置の商業施設などを利用しており、生活圏が札幌であり、札幌市の衛星都市のような感じである。石狩市や札幌市との連携が必要であり、札幌と連携して計画を作れないか。
・立地適正化計画が制度化されてからすでに 10 年が経過している。他の市町村はすでに策定し、施策を進めている。小樽の対応が遅すぎる。
・地域内にラルズ規模の商業施設が少ない。工業地を活用することはできないか。
・区域の設定に当たって津波など防災対策は考慮しているのか。
・40 年後の小樽市の人口が約４万 2 千人と推計されているとのことだが、銭函地域の占める割合が全人口の１割と考えた時に、40 年後には４千人となる。現在の施設を維持できるのか疑問である。

④小樽市民会館（12 月 11 日･14:00～16:00･出席者 21 名）

●計画全般

・中心部に緩やかに誘導し、郊外は利便性が落ちるというのはどういうことか。
・概要版が分かりづらく、理解が難しい。説明会の開催に係る回覧板が昨日届いた。町内会単位で説明会を開くことはできないか。
・行政のみでは無理で、市民と一緒に 40 年先を見据えてとのことだが、見捨てられていると感じないよう、より多く市民に説明していくことが大事である。
・塩谷や高島などは、一般都市機能誘導区域に指定されているが、古くから歴史や文化が育まれてきた重要な地域である。これを将来につなげていく必要がある。
・ゆとり居住エリアは、公共サービスが限定的というが、イメージがわかない。人口が減るからまちづくりを進めるというのは理解できない。長期間かけて集約するというが、実効性ということではどうなのだろうか。
・市のホームページ等で区域境界などが検索できるようにしていただきたい。
・第 6 回目以降の策定委員会を非公表としていたが、なぜか。

●区域･施設･施策関連

・空き家調査を行うというが、この計画と関係があるのか。
・区域外に住んでいるが、人口減少が進む中では仕方がないと思う。将来、区域内への移転を考える際、固定資産税の減免などがあると、その判断につながるのでは。
・将来、まちなかへの移転を考えているが、策定後、施策などをどのように進めていくかなど、今後のアクションについて教えて欲しい。
・都市部にある程度大きな市営住宅を整備し、郊外から高齢者を誘導する施策は考えているのか。
・水道や下水道などのインフラに係る今後の方向性について、誘導施策に触れていないのはなぜか。